



謹賀新年



大杉執行委員長



新年明けましておめでとう
ございます。本年も宜しくお願
い致します。

昨年は、新型コロナウイルス
感染症拡大という中、組合員の
皆様には負担や制限のかかる
組合活動となりました。本部に
おいても初めての経験が多く
不手際もありましたが、皆様か
らの多大なご理解ご協力を承
り心より感謝申し上げます。年
が明けましても、まだまだコロ
ナウイルス感染症拡大は続く
と思われませんが、ワクチン接種
(案)も始めており、収束の
兆しが少しではありますが見
えてきました。皆様におかれま
しては気を緩めることなく、感
染症防止対策に努めて頂きた
いと思います。私から年頭に際
し、「安全」・「コロナ関連」・「政
労使の取り組み」の3点につい
て述べたいと思います。

1点目は安全の取り組みに
ついてです。

安全は「一丁目一番地」と言
われ、業務を行う上で最重要課
題です。JR貨物には6支社あ
りますが、基本作業が全て同一
かと言われれば、そうではあり
ません。支社独自、駅独自と、
様々な作業手順が混在します
が、安全最優先を考慮すれば全
国統一の作業手順にすべきで

あると強く思います。長い歴
史を経て現在の作業手順とな
っていることは理解します
が、「A駅はこのやり方」「B
駅はこのやり方」と作業手順
が異なれば、事故のリスクは
高まります。新人事制度で社
内異動がこれまでもよりも活
発になると考えられ、組合員
が不安全と感じる作業手順が
あれば、その不安全の芽を潰
していき、組合員の安全、ひ
いては組合員の命を守る取り
組みを今後も率先して行って
いきます。

2点目はコロナ関連につい
てです。

新型コロナウイルス感染者
は、世界で約7800万人、
死亡者約170万人、国内感
染者は約21万人、死亡者約
3千人(2020年12月2
5日現在)となっており、国
内での新型コロナウイルス感
染者は約7万人以上と言われ
ています。新型コロナウイルス
感染拡大による一時帰休は、
JR貨物グループでありませ
んでしたが、JR連合の仲間
では実施されたところがあり
ました。このコロナ禍で痛感
したことは、健全な労働組合
の必要性です。一時帰休制度
実施には労使で協定を結びま
すが、労働組合がない会社は
社員代表と結ぶことになりま
す。社員代表が他人の雇用責
任を持つことになりませんが、
それはあまりにも酷な話で
あり、巷で組合不要論の話題
を耳にしますが、健全な労働
組合は絶対に必要でありま
す。

JR連合は一時帰休制度の相
談だけでなく、雇用調整助成金延
長実現、社会保険料納税猶予の取
り組み、そして、租税公課の負担
軽減措置延長を2021年税制
改正大綱に盛り込みました。JR
貨物関係では、軽油取引税特例が
盛り込まれましたので、1月から
始まる通常国会を注視して下さ
い。

最後に「政労使」の取り組みに
ついてです。

今年度末で期限切れを向える
債務等処理法改正に合わせて、J
R貨物も盛り込まれるよう、JR
連合国会議員懇、議員フォーラ
ム、JR二島・貨物経営自立実現
PTを通じ、関係省庁に働きかけ
た結果、通常国会で審議される運
びとなりました。関係各位のご尽
力に感謝致します。また、債務等
処理法に関しては会社も同じベ
クトルをもっており安堵してい
ると思われまます。これこそ「政労
使」が力を結集させた結果であり
ます。

結びといたしまして、2030
年北海道新幹線札幌延伸に向け
て、青函トンネル問題が議論され
ていますが、これも「政労使」で
取り組む国家的課題です。政労使
の「労」は、国からも信頼ある労
働組合、「JR連合・貨物鉄産労」
しかありません。組合員の皆さ
ん、自信を持って共に頑張りまし
よう。



2021新年

JR連合会長あいさつ



新年おめでとうございます。組
合員の皆様には、新型コロナウイルス
の感染不安の中でも安全輸
送の遂行をはじめとする業務に
精励され、さらにJR連合の運動
を支えていただいておりますこ
とに感謝申し上げます。

昨年初からのコロナ禍により、
JRグループの経営と私たちの
生活はJR発足後最悪の危機に
陥りました。本年はワクチンや治
療薬の開発・普及が期待され、早
期に日常を取り戻せることを願
うとともに、JR産業が危機を脱
して安定回復へ見通しをつけ、働
く仲間の雇用と生活を守り、将来
に安心と希望を持てる年となる
よう責任ある運動を進める決意
です。

新年にあたり、以下、本年の中
心課題4点について提起しご挨
拶とします。

まず、最優先課題である安全確
立です。昨年は8月にJR北海道
で夜間作業後の交通事故により
20代2名の尊い命を失うなど
5名が労災で亡くなりました。働
く仲間の安全確保がひいては鉄
道の安全につながります。「ヒュ
ーマンエラーは結果であり原因
ではない」との理念を基調に置
き、職場からの安全確立に全力を

あげる決意を固め合いたいと思います。

2点目にコロナ危機克服の取り組みです。昨年、組合員と家族の皆様の積極的なご協力で緊急課題の要求実現を求めると、万筆以上の署名を集約できました。心より感謝申し上げます。この力を基礎に、JR連合国会議員懇談会をはじめ議員各位の支援もいただき、JR7社とも連携し最大限の取り組みを進めてきました。結果的に、公租公課の負担軽減措置は認められなかったものの、雇用調整助成金の特例延長やJR北海道、四国及び貨物への税制支援措置などの要求が実現しました。JRグループは本年も厳しい経営動向が続くと想定されますが、引き続き、JR北海道・四国・貨物の支援の継続・拡充と経営自立にむけた取り組みをはじめ、JR産業の持続的発展と雇用・生活を守るために活動を展開します。

3点目にポストコロナを見据えた取り組みです。コロナ禍によって私たちの社会は大きく変化しています。JR連合はJRの責任産別として変化に向き合い、将来を見据え、経営や地域共生に関わる産業政策、雇用や働き方に関わる労働政策の両面から、JR産業が労使ともに将来にわたり発展していくために提言し、その実現に取り組みます。

4点目にJR連合の組織と運動の強化です。今回の危機において、各組合は緊急対策を労使で協議し組合員の雇用確保と不安解消に努め、また緊急課題に対する政策活動などを通じて、私たち労働組合の役割や求心力が高まったと考えます。ポストコロナにむけ、労使をあげてJR産業の改革を進め

なければなりません。その基盤として労使関係、労働組合の役割はいつそう重要になります。「JR連合ビジョン」の実践を通じ、JR連合の組織と運動をさらに前進させてまいります。

ピンチは転機であり、転機はチャンスです。改めて、未曾有の危機を克服し魅力の持てるJR産業の明るい将来展望を築くために、組合員の皆様のJR連合運動への積極的な参加と協力を要請し、新年にあたってのご挨拶いたします。



中央執行委員あいさつ

赤松中央執行委員



新年明けましておめでとうございませう。本年もよろしくお願ひ致します。昨年は、コロナ禍ということで我慢を強いられることが多々ありました。今後もこの状況が続くと思ひますが、コロナ禍だから組合活動を疎かにすることとは決してあつてはならないこととあります。私が所属する九州地区本部も高齢化が進み、これまで組合の先頭になって活動してきた先輩達が60歳を迎え世代交代の波が進み、先頭達が築き上げたものを失うことなく継続し

ていかなければならないことに強い責任を感じています。先ずは、停滞している組織運動に力を注ぎ、九州地区本部を盛り上げ、この動きが全国に広がることを期待しています。

今年の3月で東日本大震災から丸10年が経過します。復興は確実に進んでいますが、完全なる復興にはまだまだ時間がかかります。九州地区は毎年のように大雨被害に遭い、復興が進んでいない地域も多くあります。被災した鉄道の現状を見ると、自然のパワーに脅威を感じますが、災害に強い強靱な鉄道設備作りをJR連合共に取り組んでいきたいと思ひます。

2017年12月、千早操車場構内で起きた死亡労災から3年が経過しました。組合員の尊い命が一瞬で失われたあの悲しみは今も忘れません。昨年の定期大会以降、各旅客会社で死亡労災が連続して発生しています。すぐそこで重大労災が起きていることを肝に銘じ「業務においては安全最優先」を心がけ、日々の業務につきたいと思ひます。皆様におかれましても、安全最優先の職場づくり・重大労災ゼロを目指して頂き、また、コロナウイルス感染症防止に努め、実りある1年になることを切に願ひしております。

最後に、組合員のご健康とご多幸をお祈りし、簡単ではございませうが新年の挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願ひ致します。皆さん共に頑張りましょう。



小山中央執行委員



謹んで新年のお祝いを申し上げます。ご家族やご友人とお過ごしになられた方、仕事をされた方など各々の立場で新年を迎えられたことと思ひます。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。そして改めまして日頃より労働運動を支えて頂いている皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。私はJR貨物連合（JRグループ労働者連合会）・男女平等参画推進を担当しています。

新型コロナウイルス感染症拡大により、JR貨物会社においても多大な影響を受け、JR旅客会社ほどの経営損失はなくとも厳しい経営状況となっております。そして、JR産業で働く一部の職場では、現在も一時帰休を実施しているところもあり、雇用調整としての出向や希望退職の募集、年末手当の大幅な減額や不支給など、多くの仲間が不安に駆られています。その様な中、私たちJR貨物連合はJR連合とともに、JR産業を守るための雇用の維持・JR貨物の経営自立にむけて「JR産業に関する緊急政策課題の解決を求め」署名活動を展開し、組合員・家族・OBを含め多くの方々からご理解ご協力を頂き、目標署名数を超える運動を展開できました。これらは、組織力を発揮したことを表し、JR貨物連合の運動が内外に共感して頂けた

「支え合い」は「ささえ愛」。 仲間みんなで守り合いたい。

交運共済は、JRやJR関連企業で働く仲間を守る相互扶助の共済です。厚生労働省の認可を得て事業を行い、組合員とご家族の安心と生活をサポート。慶弔見舞金制度の総合共済から、火災、地震風水害、交通災害、生命、入院、マイカー、自賠責、総合医療と共済事業を展開し、幅広い保障体制を整えています。



みんなで暮らしをガード
交運共済
KOSUN
全国交通運輸産業労働者共済生活協同組合

と強く感じています。

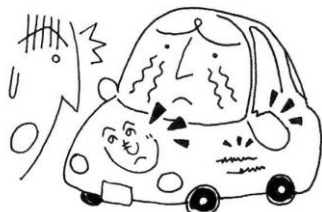
今年も新型コロナウイルスの対応が強く求められる中、労働組合の取り組みも非常に難しく制限されています。しかしこうした経験のない状況を前向きにとらえ、労働運動の基本に立ち返り、労働運動の必要性を組合員・会社に訴えていくことにより、他労組組合員に共感してもらい、やがては組織拡大に繋がります。

私たちを取り巻く環境の変化は著しく、先行き不透明な状況が続くと予想されますが、今後直面する課題に対し総力を結集して乗り越え、JR産業で働く仲間が安全で安心して働ける職場作りを目指し共に頑張りましょう。

最後に、組合員並びにご家族の皆様が、幸多き一年になることを心より祈念し新年のご挨拶とさせていただきます。



衝突、盗難、落書き…
気をつけていても
どうしようもない
車両損害のために。



愛車のために万が一の補償

マイカー共済 (自動車総合補償 (基本補償・車両損害補償))

鈴木本部青年部長



新年あけましておめでとうございませう。本年も宜しくお願ひ致します。私は平成24年に入社し、静岡貨物駅で輸送業務を担当したのち、現在は静岡総合鉄道部で運転士としております。日夜、安全最優先で作業される皆様には心より敬意を表します。

昨年は新型コロナウイルス一色の一年でありましたが、夏には「令和2年7月豪雨」という甚大な災害が起きました。改めて被害に遭われた方や亡くなられた方に対し、お見舞いお悔やみを申しあげ、新型コロナウイルスという今まで経験したことのない現場の最前線で、治療や予防に従事されている医療関係者の方々に感謝申し上げます。

新年を迎えましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の収束が全く見えてきません。昨年は、制限や我慢の強いられる活動を余儀なくされ、JR連合青年女性委員会最大行事のユースラリーや役員研修会が残念ながら中止となり、仲間づくりの交流の場が失われ、組合活動に大きな影響が出ました。コロナと向き合っていくうえで、三密を回避すべく、リモート形式の会議といった新しい生活様式が生まれました。新たな様式で新鮮さもありますが、人と会えないという淋しさを強く感じ、人との交流が如何に大事

かを強く感じさせられました。また、この状況が続くと思いますが、コロナの脅威が早期に無くなることを切に願っております。

私達の仕事において一番大切なことは「安全」です。残念ながら昨年の大会以降、多くの死亡労災事故が各旅客会社で発生しております。冬季は労災多発期と言われるっており、これから厳冬期を迎え、転倒・転落・スリップによる交通事故などには十分注意し、ヒヤリハットの活用や時間にゆとりを持った作業を行って頂きたいと思っております。

本年は丑年であります。「牛」は農耕や物資の運搬などに古くから用いられ、人間の生活に欠かせない動物でした。まさに物資の運搬を行う「JR貨物」の年であります。現代では牛による運搬は無くなりましたが、社会的な物流インフラを守る使命を全うするため、引き続きの安全最優先で業務に取り組む、JR貨物の更なる発展を願っております。

最重要課題である組織については、活動が停滞している感はありません。私が加入した当時は組織拡大が続く中であり活動も活発でした。現在では、退職されていく方が多く、減少の一途を辿っている淋しい状況です。この状況を打破するためにも、JR連合と共に「組織拡大・強化、民主化活動完遂」に向けて全力で取り組んでいく所存であります。

最後に、本年が皆様にとって良い一年になることと、ご家族も含めて健康で過ごされることを祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。共に頑張りましょう。

あけまして
おめでとございませう。
本年も宜しく
お願い致します。

中央執行委員長

大杉正美

中央執行副委員長

小笠原浩文

書記長

辻村和裕

中央執行委員

埴岡大介

中央執行委員

吉永和文

中央執行委員

赤松重幸

中央執行委員

小山達礼

特別中央執行委員

内山進

会計監査

鈴木俊巳

会計監査

加藤典久

職員

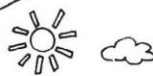
田中千絵

令和三年 元旦



人生を渡っていくには、
しっかりした橋が必要です。

長い人生には、病気、交通事故、火災、地震…など、何が待っているかわかりません。安心できる暮らしの「架け橋」として交運共済が頼りになります。営利を追求しないぶん、少ない掛金で大きな保障が得られるのが大きな特徴。しっかりワイドにガードする、交運共済をお役立てください。



みんなで暮らしをガード
交運共済
全国交通運輸産業労働者共済生活協同組合